

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 11059772
PUBLICATION DATE : 02-03-99

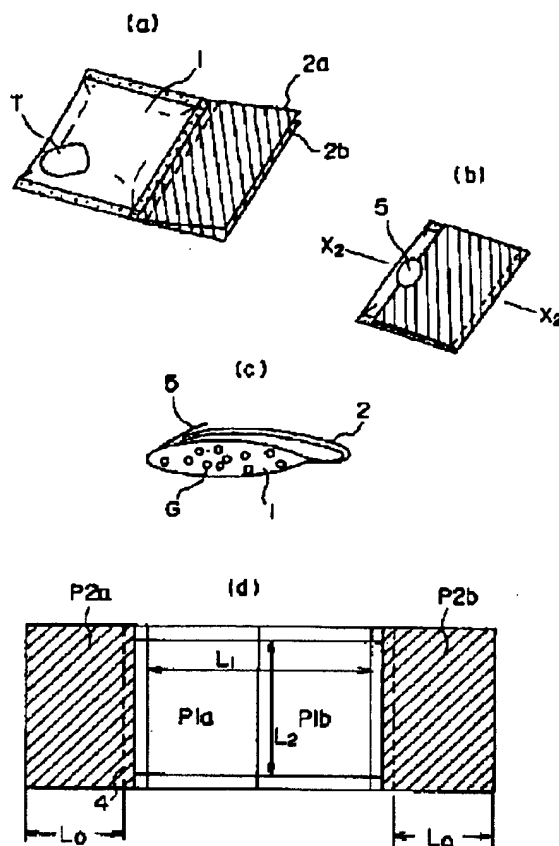
APPLICATION DATE : 08-08-97
APPLICATION NUMBER : 09225542

APPLICANT : DAINIPPON PRINTING CO LTD;

INVENTOR : SUGIYAMA YUJI;

INT.CL. : B65D 85/60 B65D 33/00 // A23G 3/30

TITLE : GUM PACKAGING BAG



ABSTRACT : PROBLEM TO BE SOLVED: To integrate waste papers at the time of throwing out chewed gum with a packaging material as a gum packaging bag, prevent a failure from occurring in a packaging process and prevent appearance of the package from degrading.

SOLUTION: The gum packaging bag comprises a packaging bag of a three- side-sealed type bag while a gum case is made into a bag comprising P1a, P1b, and two waste paper forming parts P2a, P2b respectively extended from the gum cases P1a, P1b are formed. A weakened line is provided on the waste paper forming parts P2a, P2b so that two waste papers P2a, P2b can be cut off. By thus forming two extensions from a seal end, chewed gum can be thrown larger number of times than a case of a single extension. Possible bag types include a four-side-sealed bag and a pillow bag in addition to the three-side- sealed bag.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

This Page Blank (uspto)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-59772

(43) 公開日 平成11年(1999) 3月2日

(51) Int.Cl.⁸

識別記号

F I

B 6 5 D 85/60

B 6 5 D 85/60

33/00

33/00

Z

// A 2 3 G 3/30

A 2 3 G 3/30

審査請求 未請求 請求項の数 4 F D (全 7 頁)

(21) 出願番号

特願平9-225542

(22) 出願日

平成9年(1997) 8月8日

(71) 出願人 000002897

大日本印刷株式会社

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

(72) 発明者 杉山 有二

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

大日本印刷株式会社内

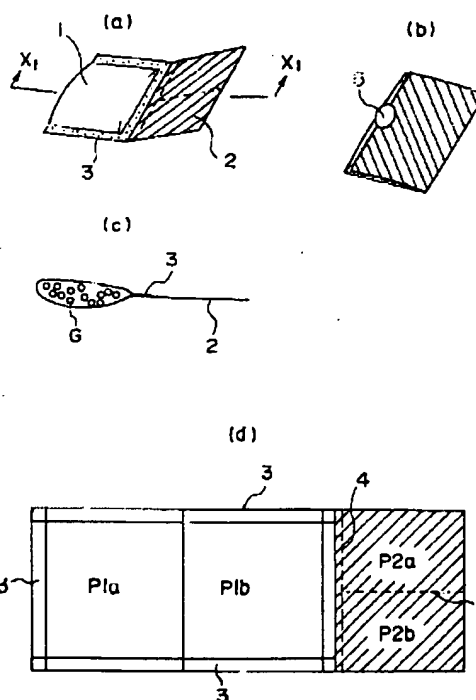
(74) 代理人 弁理士 小西 淳美

(54) 【発明の名称】 ガム包装袋

(57) 【要約】

【課題】 小粒ガムのパッケージにおいて、噛んだ後の滓を捨てる時の捨て紙を包装材料と一体化し、包装工程にも支障を生ずることなく、また、包装の外観を損なうことのない包装形態に関する技術を提供する。

【解決手段】 ガムが包装材料によって包装された包装袋であって、前記ガムが包装された充填部のシール部の少なくとも一方の包装材料を延長した延設部を設け、該延設部に弱め線を設けたことを特徴とするガム包装袋であり、前記延設部が前記充填部の外面に仮着してなること、前記包装袋がビロータイプ、3方シールタイプまたは4方シールタイプであることを含む。



【特許請求の範囲】

【請求項1】ガムが包装材料によって包装された包装袋であって、前記ガムが包装された充填部のシール部の少なくとも一方の包装材料を延長した延設部を設け、該延設部に弱め線を設けたことを特徴とするガム包装袋

【請求項2】前記延設部が前記充填部の外面に仮着してなることを特徴とする請求項1記載のガム包装袋

【請求項3】前記包装袋がビロタイプであることを特徴とする請求項1又は請求項2記載のガム包装袋

【請求項4】前記包装袋が3方シールタイプまたは1方シールタイプであることを特徴とする請求項1又は請求項2記載のガム包装袋。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】チューイングガム用の捨て紙を一体化する包装形態に関する。

【0002】

【従来の技術】菓子的一种であるチューイングガム（以下、ガムと記載する）は、噛んだ後に粘着性のある噛み滓（以下、滓と記載する）が残り、この滓をそのまま捨てる则他の物体と粘着するために不潔であり、また、道路や駅のホーム等に固着するとその除去、清掃のために多くの労力を必要とする。そのため前記滓を捨てるときは捨て紙に包んで捨てるのが社会的ルールとなっている。販売されるガムが板ガムの場合には図6に示すように、1枚ずつの板ガムを内装紙で包み、その外側に絵柄付内装紙が常状に巻き付けられていて、前記内装紙又は絵柄付内装紙は共に滓を包むのに充分な大きさであり、一般的にはこのいずれかを捨て紙として用いることで用を足している。また、比較的大きな粒状のガムの包装においては、個々の粒状のガムをやや大きめの包装紙で包み、該包装紙を捨て紙として利用できるようにしている。また、比較的小粒のガムの場合、個々のガムの粒を包むことなく裸の状態に袋や成形容器に収納する方法がとられる。前記成形容器を用いる場合においては、前記小粒のガム用容器としては振出し機構を備えた容器が多く、その場合には、容器から内容物を取り出す際には、前記振出口から取り出すことになる。この場合、数枚の捨て紙を内容物であるガムと混在して容器内に入れることも考えられる。しかしこの方法は単純ではあるが、紙の枚数をカウントし、容器に封入することが意外に手間がかかり能率があがらない。また、捨て紙を取り出す際にはガムと混在しているために取り出し難いという問題がある。また、図7に示すように粒ガムケース20の表面に、前記ジャバラ折りラベル61を貼着することがある。粒ガムケース20の外面に接着した場合に、図7(c)に示すように前記ケース外方にジャバラ（捨て紙）23が延びることがあり、外観が良くない。さらに、この方法における前記ラベル21の貼着は自動化し易いという利点はあるものの、ラベルとしての粘着

加工（シール加工）代としてのコストがかかる。やむを得ず、従来はこのような裸の粒ガムなどを収納する容器は捨て紙をつけないものも多く、噛み終わったあと滓を捨てる際には、ちり紙など、別の紙を用意する必要があった。また、紙に包まないでそのまま路上や駅のホーム上などに捨てた場合には歩行者の靴底に付着したりして、不快な思いを与えることも多かった。このケースにはモラルの問題もあるが、ガム包装袋に捨て紙が付設されていけば、これらのトラブルも解消できるので、安価で使い易くかつ外観を損なうことなく包装袋に捨て紙を一体化する包装方法が望まれていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】小粒ガムのパッケージにおいて、噛んだ後の滓を捨てる時の捨て紙を包装材料と一体化し、包装工程にも支障を生ずることなく、また、包装の外観を損なうことのない包装形態に関する技術を提供する。

【0004】

【課題を解決する手段】ガムが包装材料によって包装された包装袋であって、前記ガムが包装された充填部のシール部の少なくとも一方の包装材料を延長した延設部を設け、該延設部に弱め線を設けたことを特徴とするガム包装袋であり、前記延設部が、前記充填部の外面に仮着してなること、前記包装袋がビロタイプ、3方シールタイプまたは4方シールタイプであることを含む。

【0005】

【発明の実施の形態】本発明は、ガムの包装袋の一部を延長して、滓のための捨て紙とすることを特徴としたものであり、各種の袋形態において実施可能である。図1は、本発明のガム包装袋の実施例の捨て紙を開いた状態の斜視図(a)、捨て紙を開く前の状態を示す斜視図(b)、 X_1-X_1 断面図(c)、展開図(d)である。図2は、本発明のガム包装袋の実施例の捨て紙を開いた状態の斜視図(a)、捨て紙を開く前の状態を示す斜視図(b)、 X_2-X_2 断面図(c)、展開図(d)である。図3は、本発明のガム包装袋の別の実施例を示す斜視図(a)、 X_3-X_3 断面図(b)、展開図(c)、である。図4は、本発明のガム包装袋の第3の実施例を示す斜視図(a)、捨て紙を開く前の状態を示す斜視図(b)、 X_4-X_4 断面図(c)、展開図(d)である。図5は、本発明のガム包装袋の第4の実施例で、特にガムの取り出し方法についての説明図で、取り出し口側からの斜視図(a)、Y部の拡大図(b)、タブを持ち上げた状態の拡大図(c)、 X_5-X_5 の断面図(d)、 X_6-X_6 の断面図(e)である。図6は、本発明のガム包装袋の第5の実施例を示す斜視図(a)、平面図(b)、 X_7-X_7 断面図(c)、Z部の拡大図(d)である。

【0006】本発明のガム包装袋は、包装材料の製袋前の大きさとしてガム収納部を形成する充填部に加えて、

捨て紙形成部からなる。前記捨て紙形成部は、前記充填部をヒートシールにより形成するヒートシール端部から、すくなくとも一枚を延設することにより実現できる。具体的な実施方法としては、図1に例示するような3方シール袋において、ガム収納部1のヒートシール端部の一枚の包材を延設し、捨て紙形成部2とし、該捨て紙形成部2に、必要面積の捨て紙を得るために弱め線4を設ける。前記弱め線の形成方法としては、ミシン目、炭酸ガスレーザー等を利用したハーフカット方式等により形成可能であるが、包装材利用の切り取りが確実にできる方法であれば、前記以外の方法を用いても良い。図1の例においては、捨て紙を2枚切り取り可能としている。さらに詳細に説明すれば、ガム収納部1は図1

(d)の展開図に示すように、P1aとP1bとにより袋状とし、P1bから延設されたP2が捨て紙形成部2となる。そして、本実施例においては、前記捨て紙形成部P2に弱め線4を設けて、2枚の捨て紙P2aおよびP2bを切り取ることができるようにしてある。延設する面積としては、少なくとも、ガムを1回分噛んで捨てる際に包むことができる面積とする。また、必要により、前記噛んだ後の滓を捨てる回数分の延設をしてもよい。延設する長さを更に大きくして、2重折り等により、ガム収納部1に重ねても良い。また、ヒートシール端部から延設する包材は一枚でなく2枚でもよい。図1の例において、実際に、ガムGを噛み終わった後の滓を、例えばP2a部分を切り取り、捨て紙として、前記滓を包んで捨てることができる。捨て紙形成部2はそれが使用される時以外は、図1(b)に示すように、例えば粘着ラベル5で、ガム収納部1に仮着しておくことが望ましい。

【0007】本発明のガム包装袋として実施可能な袋タイプは、前記3方シール袋の他、4方シール袋、ヒロー袋等があげられる。また、フレキシブルな包装材であってシール端縁を有する袋であれば、特殊な形態の袋であってもよい。

【0008】本発明において使用できる包材は、単層でも多層でもよいが、袋状に製袋可能な材料（一般的には、それはヒートシール性を有する包装材であることを意味する）であればよい。単層の材料としては、ポリエチレン、ポリプロピレン、セロハン等の単体または、少なくとも片面にヒートシール剤を塗布したものなどであるが、典型的な構成としては包装機械適性や印刷適性を有する基材層と、ガムに含まれる香料等の芳香成分の透過を防ぐ性質を有するバリアー層と、袋を形成するための接着層（熱接着可能なヒートシール層が一般的）を積層した3層構成の複合材料を挙げることができる。または、前記基材層および前記バリアー層の必要性能を合わせ有する材料とヒートシール層との2層であってもよい。

【0009】前記基材層としては、寸法安定性、耐熱

性、印刷適性などの適性のある材料を用いる。例えば、薄紙類、アルミニウム箔をはじめ、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリ塩化ビニリデン、ポリアミド、ポリカーボネート、ポリエステルなどの未延伸または延伸フィルムを挙げることができる。

【0010】前記バリアー層としては、アルミニウム箔、アルミニウムまたは酸化アルミニウム、シリカ等を蒸着したフィルム、ポリ塩化ビニリデンなどのバリアー性を有する樹脂の溶液またはエマルジョンを各種フィルムに塗布して乾燥して皮膜化した、いわゆるバリアーコートフィルム等であってもよい。また、前記のように、前記アルミニウムまたは酸化アルミニウム、シリカ等を蒸着したポリエステルフィルム等を基材として、ヒートシール層をラミネートしたフィルム層としては2層構成であるようなタイプとしてもよい。

【0011】前記ヒートシール層としては、ポリエチレン、ポリプロピレン、エチレン-酢酸ビニル共重合体、エチレン-アクリル酸共重合体等の樹脂を溶融押し出しコート法により積層してもよいし、またこれらの樹脂を原料としたフィルムを作成し、前記基材またはバリアー材とドライラミネートしてもよい。

【0012】また、前記のような異種材料を積層してなる包装材から構成された捨て紙形成部は、カールし易く、やや固い感じとなる。そこで、捨て紙形成部にエンボス等を施すことにより、カール防止をするとともに、包材に柔軟性をあたえることができる。

【0013】本発明のガム包装袋の延設した捨て紙形成部は、延設したままの状態では、捨て紙部が広がってしまい、商品としての取扱いに支障がある。そのため、図1(b)に示すように、前記延設した捨て紙部をガム収納部側に折り返してその端部を粘着ラベル5等により仮止めすることにより、商品として取扱い易いものとなる。捨て紙2を切り取る際は、前記粘着ラベル5を剥がして、必要な面積のまたは必要な枚数の捨て紙を弱め線4から切り離し、その残部の端部を再度ガム収納部に前記粘着ラベル5により仮止めする。また、収納するガムの量が多く、捨て紙としても多くの枚数を必要とする時は、シール端部からの延設部2を長くして、多くの弱め線4を設けることにより、随意的枚数または大きさの捨て紙とすることが可能である。この際の延設部2は、ジャバラ折りとしたり、または、巻取としても良い。

【0014】本発明における弱め線を設ける際、捨て紙として任意の大きさに切り取れるように、捨て紙形成部の全面に縦横に多数条の弱め線4を設けても良い。噛み終えたガムの量に応じて、望ましい捨て紙の面積となるように、前記縦横の弱め線4の任意の線から切り取ることができる。

【0015】本発明のガム包装袋に収納した粒ガムを取り出す方法としては、種々の方法が利用できる。例えば、後述するように内容物のガムを充填する前の包装材

料の、ガム収納部に位置する部分に、内容物であるガムが通過可能な大きさの切り線を設け、裏面に粘着性を具備し、リクローズにおける固定部となる部分と前記切り線部により開撓される面積とを被覆できる面積を有するタブを被覆貼着する。内容物である粒ガムを取り出す際には、前記タブを剥離して持ち上げると、前記切り線部により開まれた部分のフィルムがタブに粘着して持ち上がり、その結果取り出し口を形成する。前記取り出し口から内容物を取り出した後、再度タブをガム収納部のフィルムに圧着することによりリクローズすることが可能である。また、袋のタイプによっては、袋の端部に開閉可能なファスナーを設けることも可能である。前記ファスナーを利用したリクローズ性についても、実施例において説明する。以下、本発明を実施例により説明するが、本発明は以下の実施例の袋形式または捨て紙形成部の形状または大きさに限定されるものではなく、本発明の主旨に従って適宜袋の形状捨て紙形成部の大きさを変更し得るものである。

【0016】

【実施例】

〔実施例1〕包装袋のタイプを3方シール袋とし、ガム収納部は図2(d)の展開図に示すように、P1aとP1bとにより袋状とし、P1aから延設されたP2aおよびP1bから延設されたP2bの2枚が捨て紙形成部となる。そして、本実施例においては、前記捨て紙形成部P2に弱め線4を設けて、2枚の捨て紙P2aおよびP2bを切り取ることができるようにしてある。このようにシール端部からの延設部を2枚とすることで、前記の1枚の延設と比較して、その分多くの回数に分けて、滓を捨てることが可能である。各部の大きさは、図2(d)の各位置において次の通りとした。

$L_0=40\text{mm}$, $L_1=40\text{mm}$, $L_2=70\text{mm}$

また、シール部はいずれも5mm巾とした。本実施例の場合の内容物の充填量は11gである。

【0017】〔実施例2〕図3に示すように、4方シールの袋の一边を延設し捨て紙形成部2とした。本実施例の袋の寸法は、ガム収納部の内寸は、 $40\text{mm} \times 40\text{mm}$ とし、シール巾は5mm、捨て紙形成部寸法は $45\text{mm} \times 50\text{mm}$ である。尚、粒ガムの内容量は3gである。

【0018】〔実施例3〕図4に示すように包装袋はピロータイプであって、合掌シール位置が袋の端部側に位置させた袋である。袋の寸法は、図4(d)に示した各部において

$L_0=70\text{mm}$, $L_1=70\text{mm}$, $L_2=40\text{mm}$, $L_3=10\text{mm}$

とし、シール3はいずれもシール巾を5mmとした。内容量は4gである。図4(b)及び(c)に示したように、本実施例の捨て紙形成部は、ピロー包装の正面を被覆して、裏側に折り込み、捨て紙形成部端部袋において粘着ラベル5により仮着した。また、この例においては、ガム収納部の正面に印刷された表面デザインF1と

同じ絵柄を捨て紙形成部に、該捨て紙形成部を前記ガム収納部の正面に印刷された表面デザイン部を被覆したときに、前記F1と同一位置となるようにF2を印刷しておくことによって、捨て紙2として切り取っても同じ絵柄が現れるようにした。

【0019】〔実施例4〕本発明のガム包装袋から内容物であるガムを取り出す方法として、図2に示したように、前記実施例1のガム収納部にタブTを設けたが、この部分について説明する。この取り出し口は、図5

(c)に示すように、ガム収納部に貼着したタブTを剥がして持ち上げることにより取り出し口(開口部)30を形成することができる。この取り出し口30の形成は、内容物のガムGを充填する前の包装材料3-1のガム収納部に位置する部分に、内容物であるガムGが通過可能な大きさの切り線31を設け、基材3-2の裏面に粘着層33を具備し、リクローズにおける固定部となる部分と前記切り線部により開撓される面積とを被覆できる面積を有するタブTを被覆貼着する。内容物である粒ガムGを取り出す際には、前記タブTを剥離して持ち上げると、前記切り線31により開まれた部分の包装材料がタブTに粘着して持ち上がり、その結果、開口部(取り出し口)40を形成する。前記開口部40から内容物を取り出した後、再度タブTをガム収納部のフィルムに圧着することにより、タブ裏面の粘着層33が再度前記包装材料に粘着することによりリクローズすることが可能である。

【0020】〔実施例5〕

包装袋：図6(a)に示すように、内容物の取り出し口に開閉用ファスナー40を設けた袋であって、端部シールと前記ファスナー40との間には、易裂性処理41の施されている袋である。ガム収納部1のシール端部を延長して、捨て紙形成部2を設けた。また、図6(d)に示すように、捨て紙形成部2における両側部は、シールしない状態とすると、弱め線からの切り取りは、それぞれの端部までとなり、広い面積の捨て紙が確保できる。前記開閉用ファスナー7を設けることにより、ガム収納部1に内容物が残った場合には、リクローズが容易にできる。

【0021】

【発明の効果】本発明のガム包装袋に粒ガムを包装することによって、携帯に便利であり、袋のシール部に設けた延長片を弱め線から切り離して捨て紙として、噛んだあとの滓を包んで捨てることができる。捨て紙形成部は、折り込み又はおり畳んでガム収納部の外面に粘着ラベル等で仮着することで、商品としてコンパクトな包装形態とすることができた。ピロータイプ、3方シール、4方シール等の袋の形式にも適用できる。従来の包装機を用いて包装可能である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のガム包装袋の実施例の捨て紙を開いた

状態の斜視図(a)、捨て紙を開く前の状態を示す斜視図(b)、 $X_1 - X_1$ 断面図(c)、展開図(d)

【図2】本発明のガム包装袋の実施例の捨て紙を開いた状態の斜視図(a)、捨て紙を開く前の状態を示す斜視図(b)、 $X_2 - X_2$ 断面図(c)、展開図(d)、

【図3】本発明のガム包装袋の別の実施例を示す斜視図(a)、 $X_3 - X_3$ 断面図(b) 展開図(c)

【図4】本発明のガム包装袋の第3の実施例の捨て紙を開いた状態の斜視図(a)、捨て紙を開く前の状態を示す斜視図(b)、 $X_4 - X_4$ 断面図(c)、展開図(d)

【図5】本発明のガム包装袋の第4の実施例で、特にガムの取り出し方法についての説明図で、取り出し口側からの斜視図(a)、Y部の拡大図(b)、タブを持ち上げた状態の拡大図(c)、 $X_5 - X_5$ の断面図(d)、 $X_6 - X_6$ の断面図(e)

【図6】本発明のガム包装袋の第5の実施例を示す斜視図(a)、平面図(b)、 $X_7 - X_7$ 断面図(c)、Z部の拡大図(d)

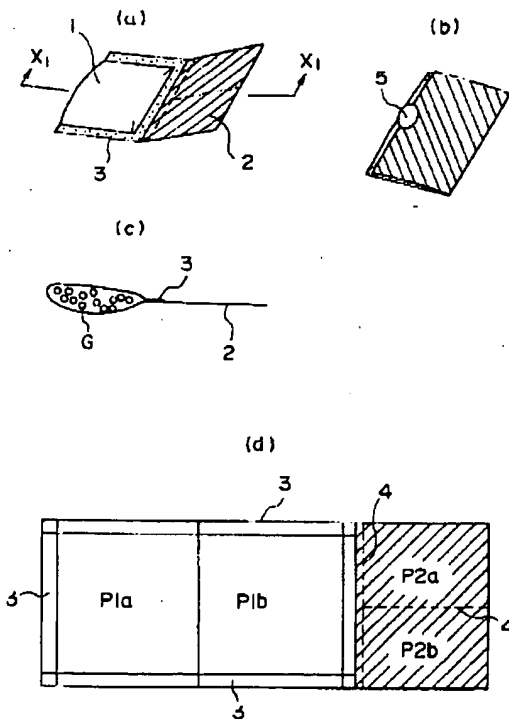
【図7】板ガムの包装の実施例

【図8】ガム収納ケースへの捨て紙貼付例

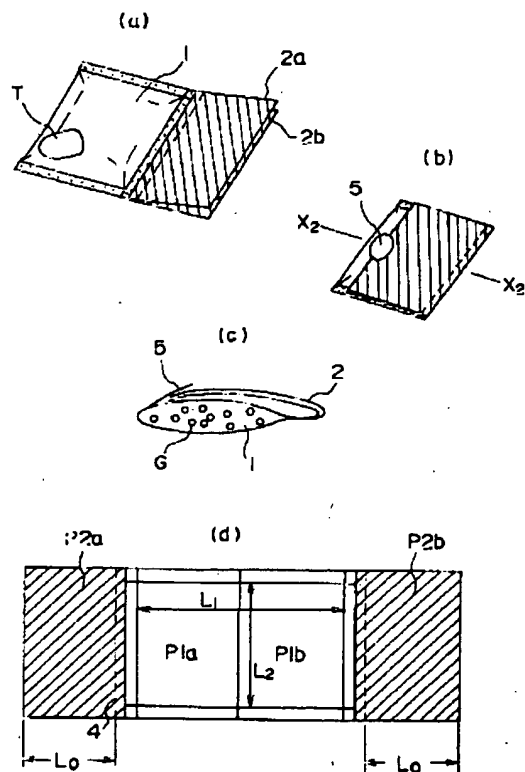
【符号の説明】

- G ガム
- P 袋を展開した時の部位
- T 開閉用タブ
- 1 ガム収納部
- 2 捨て紙形成部(延設部)
- 3 ヒートシール部
- 4 弱め線
- 5 粘着ラベル
- 10 内装紙
- 11 絵柄付包装紙
- 20 ガム収納ケース
- 21 ジャバラ折りラベル
- 22 ジャバラ折りラベルの粘着剤
- 23 ジャバラ折りされた捨て紙
- 30 開口部
- 31 切り線
- 32 タブ基材
- 33 タブの粘着層
- 34 包装材料
- 40 開閉用ファスナー
- 41 易引裂処理部

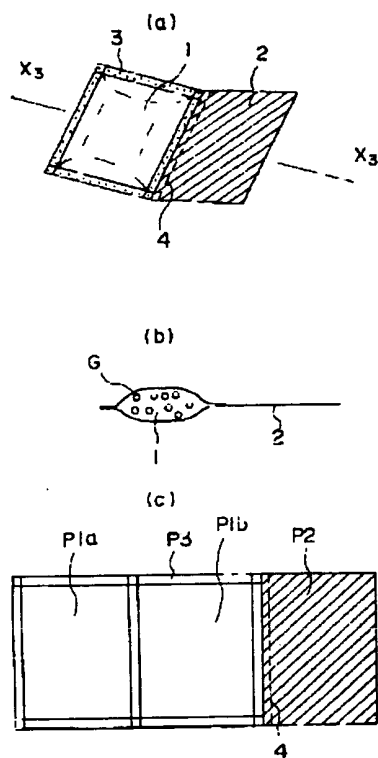
【図1】



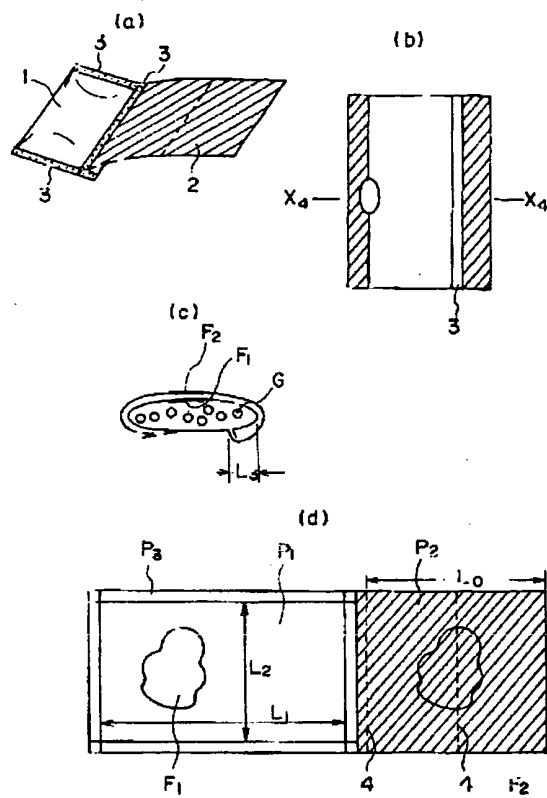
【図2】



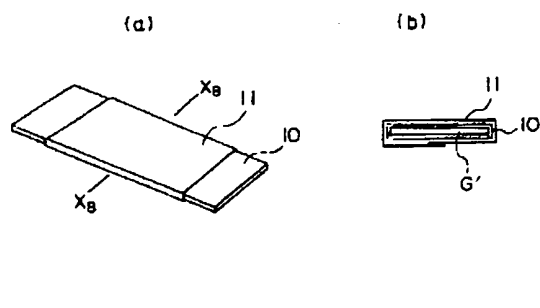
【図3】



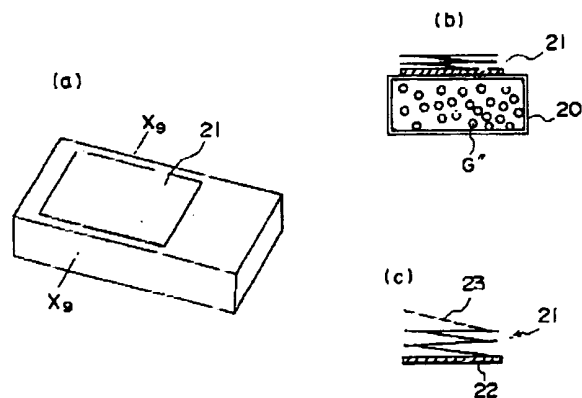
【図4】



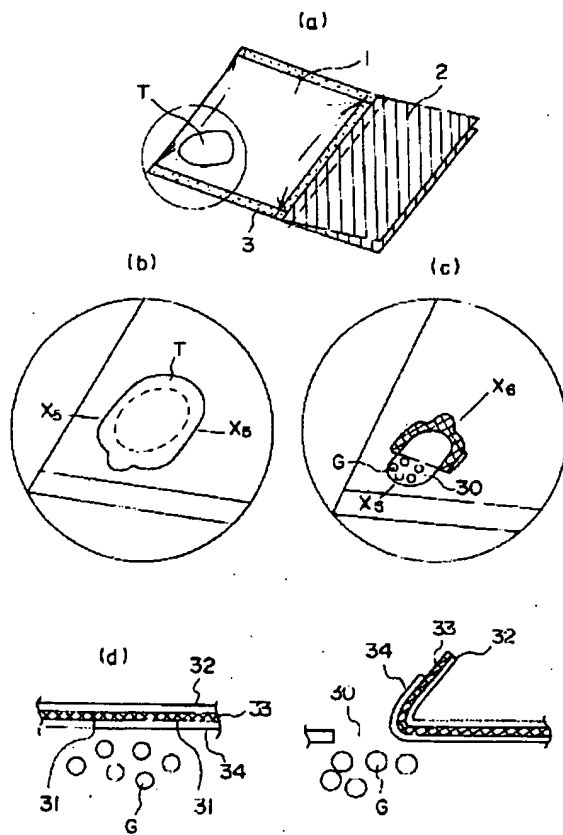
【図7】



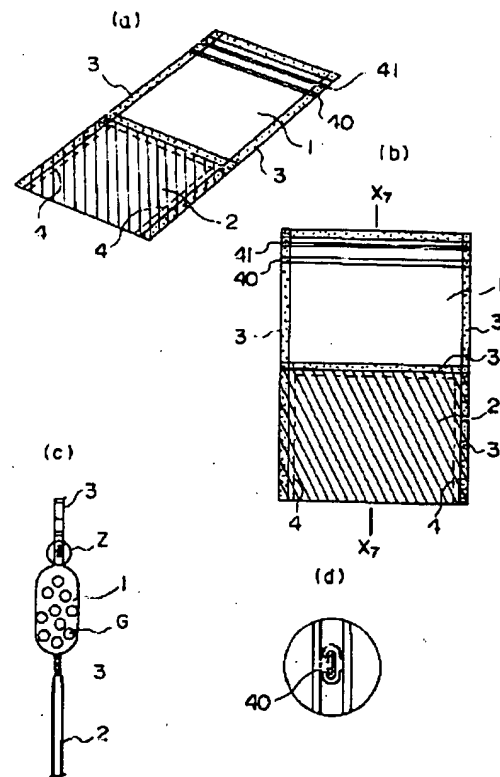
【図8】



【図5】



【図6】



This Page Blank (uspto)